

林業福島

No. 557

題字 福島県知事 佐藤雄平



1

2011

かんしゅう■福島県農林水産部
表紙の写真■ゆかいな仲間たち



福島県に生まれ、育って、住んで 良かったと思える県づくりを目指して

福島県知事 佐藤 雄平

新しい年の初めに当たり、県民の皆さんの御多幸を心からお祈り申し上げます。

私は、去る一〇月三十一日の知事選挙におきまして、多くの県民の皆さんの支持をいただき、引き続き県政を担当させていただくことになりました。この選挙期間中、県内各地をくまなく歩き、経済・雇用環境の低迷や農業を取り巻く厳しい現状を目の当たりにして、県政に対する期待の大きさとその責任の重さを痛切に感じてきたところです。

人と人との関係が希薄になり、「無縁社会」とも形容される今日、幸いにして本県には、思いやりが生み出す「ぬくもり」、地域社会のきずなが紡ぐ人と人との「つながり」、それらが醸し出す「やすらぎ」が生きております。こうした福島県の誇るべき「宝」を大切にしながら、活力のある元気な福島県を全力で築き上げてまいりたい決意であります。

新年の県政運営は、県総合計画「いきいき ふくしま創造プラン」の下、「人と地域」を礎に「活力」「安全と安心」「思いやり」の三つを柱に次の五つの重点プログラムに基づき、効果的・効率的な施策展開に努めてまいります。

「子どもたち育成プログラム」では、地域の子育て力の向上を図るとともに、学力の向上、道徳教育の充実、健やかな体の育成に取り組んでまいります。

「産業の総合力発揮プログラム」では、取引拡大の支援などによる地域産業の振興や景気変動の影響を受けにくく高い競争力を有する産業の育成、農林水産物の付加価値向上と新たな産業の創出を目指す地域産業の六次化を一層推進してまいります。

「低炭素社会づくりプログラム」では、地球温暖化対策や尾瀬・猪苗代湖等の水環境保全活動をさらに推進するとともに、木質バイオマスエネルギーの導入による環境と経済が好循環する仕組みづくりなどに取り組んでまいります。

「にぎわい創出プログラム」では、地域資源を活用し、定住・二地域居住や着地型観光の推進、文化・スポーツ、過疎・中山間地域の一層の振興に努め、活力に満ちた県づくりを進めてまいります。

「健康、生きがい、安全安心プログラム」では、地域医療体制のさらなる充実を図るとともに、社会的に弱い立場にある人たちを地域や社会全体で支え合う温かい県づくりに取り組んでまいります。

県民の皆さん一人一人が、夢と希望を持ち、生きがいと幸せを実感しながら、福島県に生まれ、育って、住んで、本当に良かったと思えるような、素晴らしいふるさと「福島県」を築いてまいりますので、県政運営に対する一層の御理解と御協力をお願い申し上げます、新年のごあいさつといたします。

《も く じ》

とびら

福島県に生まれ、育って、住んで良かったと思える県づくりを目指して

福島県知事 佐藤 雄平…… 1

森林づくり活動発表交流会開催される…… 2

森林・林業再生プラン最終とりまとめ… 3～4

林業研究センターだより

次世代の精英樹からみた今後の種苗生産… 5～6

森林文化シリーズ

千両・万両有り通し…………… 7

普及指導員通信…………… 8

木材市況・ふくしま東西南北…………… 9

みどりの少年団コーナー…………… 10

公社だより…………… 11

森林管理署メモ…………… 12

はなしのひろば…………… 13

うつくしま21森林づくり 活動発表交流会開催される



活動発表の様子

一二月一日(土)県農業総合センター大会議室にて、うつくしま21森林づくりネットワークが主催する「うつくしま21森林づくり活動発表交流会」が行われました。県内各地で活動している森林ボランティアの活動内容の発表と記念講演が行われ、情報交換と今後のあり方について意見交流がなされました。

はじめに、渡辺一夫会長より「野生動物の被害は年々深刻になりつつあります。今後、野生動物との住み分け等が課題となるでしょう、より多くの情報や意見の交換を行い有意義なものにしましょう」とあいさつがあり、早速活動発表に移りました。各団体約二〇分(質疑応答も含む)の持ち時間で活動発表が行われました。発表団体は次の通りです。

「現在重点的に取り組んでいる活動について」

NPO法人いわきの森に親しむ会
松崎 和敬

「森林での生活を通して」

県南、木もれび倶楽部 藤井 祐二
「里山への思い」

女神山を愛する会 氏家 武

「歴史ある奥州行方街道沿いの森林づくり活動について」

NPO法人「みどり」と花の大地学園

岡 征四郎

「これまでの活動状況について」

みんなで創るあぶくまの森協議会
斎藤 寛

地元の企業等に呼びかけて、山に関心を持ってもらうため市民参加の森づくりに力を入れたり、福島に移り住み森林ボランティアに参加して地域との交流活動を行ったり、豊かな自然を守るため、子供たちにその大切さを教えていく活動を推進したり、とそれぞれ熱心な活動が発表されました。

しかしその一方では、ボランティアだけでは森林の手入れが困難な事や、森づくりを担う人材の育成、環境資源の再認識、竹害などの問題が質疑応答で取り上げられました。中でも、中山間地域でのクマやイノシシなどによる被害についての報告が多くあげられました。

そして「県内野生動物による被害



講演をする大槻氏

動向」と題して県農業総合センター主任研究員の大槻晃太氏により講演が行われました。

近年頻繁に起こっているクマ、イノシシ、サル等の野生動物による被害の状況、分布領域の変化等について説明がなされ、質疑応答では、各団体からどのような被害があるか報告を受けながら対策等の話し合いがなされました。

今後、それぞれの地域で現在どのような被害が出ているかを把握し、地元の人がどのような考えを持っているかを知り、活動に反映することが大事であり、これからの情報を発信しながら我々ができる事を一歩ずつ進めていきたいと思います。



盛んに意見がかわされた

森林・林業再生プラン最終とりまとめ

— 森林・林業の再生に向けた改革の姿 —

国では、平成二十二年二月に、今後一〇年間の目途に、我が国の森林・林業を早急に再生していくための指針として、森林・林業再生プラン（コンクリート社会から木の社会）を策定した。

再生プランでは、路網の整備、森林集約の集約化、及び必要な人材育成を軸として、効率的かつ安定的な林業経営の基盤づくりを進めるとともに、木材の安定供給と利用に必要な体制を構築することとし、木材自給率五〇％以上を目標に掲げている。

さらに、この再生プランを着実に推進する具体的な施策の検討を行うため、制度的課題を検討する委員会と、実践的課題を検討する四つの委員会を設置して、それぞれ議論を重ねてきた。

昨年十一月三〇日には、「森林・林業の再生に向けた改革の姿」と題した、森林・林業再生プランの最終とりまとめが発表された。

○ 改革の方向

これまでの森林・林業政策は、森林造成に主眼が置かれ、持続的な森林経営を構築するためのビジョン、そのために必要な実効性のある施策や実行体制を確立しないまま、間伐等の森林整備に対して広く支援してきた。その結果、施業集約化や路網整備、機械化の遅れ、脆弱な木材供給体制、森林所有者の林業への関心の低下という悪循環に陥っている状況である。

このことを真摯に受け止め、森林・林業に関する施策、制度、体制について、抜本的見直しを行い、森林資源の利用期に適合した新たな森林・林業政策を構築していくことが必要となっている。

このため、

- ① 適切な森林施業が確実に行われる仕組みを整えること
- ② 広範に低コスト作業システムを確立する条件を整えること

- ③ 担い手となる林業事業者や人材を育成すること

- ④ 国産材の効率的な加工・流通体制づくりと木材利用の拡大を図ること

を段階的、有機的に進めていくことにより、国産材の安定供給体制を構築する条件を整備し、一〇年後の木材自給率五〇％以上を目指す。

さらに、このような取組を通じて、森林の多面的機能が発揮されるばかりでなく、雇用の創出、山村の地域の活性化、低炭素社会の構築にも寄与することになる。

○ 改革の内容

- (1) 全体を通じた見直し

・複雑で役割分担が不明瞭であることなどにより形骸化している森林計画制度を中心に見直し、生物多様性の保全等新たな国民ニーズにも対応し、国、都道府県、市町村、森林所有者等の各主体がそれぞれの役割の下、自発的な取組を推進

するため、市町村森林整備計画のマスタープラン化、森林経営計画（仮称）の創設など持続的な森林経営を確保するための制度的枠組みを整備する。

- (2) 適切な森林施業が確実に行われる仕組みの整備

・無秩序な伐採の防止や伐採後の更新を確保するための制度を導入する。

・意欲と能力を有する者が、面的なまとまりを持って集約化や路網整備等に関する計画を作成する森林経営計画（仮称）制度を創設する。

・森林経営計画（仮称）作成者に限定して、集約化に向けた努力やコスト縮減意欲を引き出しつつ必要な経費を支払う森林管理・環境保全直接支払制度を創設する。

- (3) 広範に低コスト作業システムを確立する条件整備

・森林経営計画（仮称）等による施業集約化の推進や境界明確化の加速化を図る。



高性能林業機械による森林整備

- ・ 工夫で簡易な路網として、林業専用道、森林作業道の区分を新設し、全国的に共通する規程・技術指針等を作成する。
- ・ 路網開設等に必要な人材の育成、路網整備を加速化させていくための支援を充実する。
- (4) 担い手となる林業事業者の育成
 - ・ 森林組合については、施業集約化・合意形成、森林経営計画（仮称）作成を最優先の業務とし、その実行状況を明確化する。
 - ・ 森林組合と民間事業者とのイコールフッティング（機会均等）を確保する。
- (5) 国産材の効率的な加工・流通体制づくりと木材利用の拡大
 - ・ 川上から川中・川下までのマッチ



国産材の加工・流通

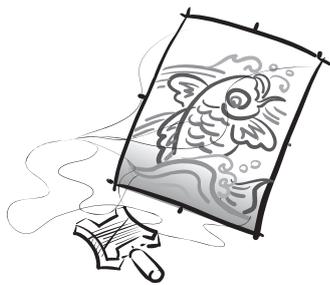
- ・ ング機能を備えた商流・物流の構築等、民有林と国有林の連携を強化しつつ効率的な流通体制づくりを推進する。
- ・ 設計者など人材の育成、公共建築物の木造化の推進、合法木材の普及等木材利用に対する消費者等の理解の醸成を図る。
- ・ パーティクルボード等の木質系材料や石炭火力発電所での混合利用等木質バイオマスの総合利用を図る。
- (6) 人材育成
 - ・ 森林・林業に関する専門知識・技術や実務経験など、一定の資質を有する者をフォレストスターとして認定し、市町村森林整備計画の策定

等市町村行政を支援できる仕組みを創設する。

- ・ 森林経営計画（仮称）の作成、集約化施策を推進するため、必要な知識習得のための研修を実施し、森林施業プランナーを育成、能力向上を図る。
- ・ 国有林は多様な立地を活かしてニーズに最も適した研修フィールドや技術を提供する。

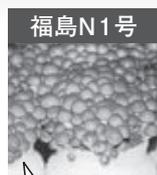
県ではこれらを踏まえて、これまで進めてきた「いきいきふくしま農林水産業振興プラン」などと併せて、市町村、森林組合、民間事業者、森林所有者等の関係者と一体となって、積極的に取組みを進めていくこととされている。

今後、持続的な森林経営の基盤の確立を通じた森林・林業の再生が図られることが期待される。



きのこで地域を元気に (財)福島県きのこ振興センター

●菌床栽培用ナメコ(登録品種)



安定多収量

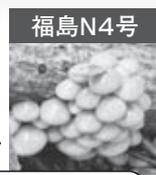


大型・滑り少

●原木栽培用ナメコ(登録品種)



コナラ原木で安定・多収量
食物繊維、ペクチン様物質豊富



○その他各種種菌

- 菌床
 - ・ シイタケ
 - ・ ハタケシメジ
 - ・ ムラサキシメジ等

- マイタケホダ木
- 栽培資材

〒963-0112 郡山市安積町成田字西島坂7-2 Tel 024-947-2188 Fax 024-947-6926
E-mail:f-kinoko@mtj.biglobe.ne.jp URL:http://www.f-kinoko.org

林業研究センターだより 次世代の精英樹からみた 今後の種苗生産



精英樹 F1 検定林内の5年生で7mのスギ優良個体
〔次世代育種〕促進研究会配布資料より

林業研究センター森林環境部
小澤 創

○はじめに

今年になって「次世代育種」促進研究会という会議に出席する機会を得ました。林木育種に関わる研究をしている者として「育種」という言葉には多少馴染みがあるのですが、「次世代」という言葉はよく分からないな、と思っていました。この研究会は学識経験者や林野庁等の方々が中心となって開催しており、ちょっと恐れ多い会議でした。その中で、今後の林木育種の方向性に「次世代育種」という言葉が大きく関わっていることが分かりました。

今回はスギやヒノキの品種開発、品種改良の現状と、次世代育種という言葉を中心に大きく舵をきりつつある日本の林木育種の方向について、研究会の内容をもとにご紹介したいと思います。

○精英樹とは何か

林業にとって良い苗木を作ること重要な柱の一つです。国が品種開発を行う際に決めた良い苗木とは用材生産を目的として、成長の早いこと、単位面積あたりの収穫量が多いこと、特徴等を持っていることとされています。良い苗を作れると思われれる木は、主に昭和三〇年代に日本全国から四、五一〇本（スギ三、五六七本、ヒノキ九四三本）が選ばれました。これを第一世代の精英樹と言います。

福島県産の精英樹はスギで一〇八本、ヒノキで三三本等があります（表一）。最近、第一世代の精英樹の成長特性、通直性、挿し木発根性などがきちんと評価された特性表が公表されました（狹森林総合研究所林木育種センターホームページ、

表一 福島県の精英樹

樹種	品種数	特に優れた特性を持っているもの		
		特性	精英樹名	備考
スギ	108	成長特性等	富岡3号	推奨品種
			若松3号	推奨品種
			西白河3号	
		二酸化炭素吸収・固定能力が高い	石城6号	
			相馬3号	
			石川1号	
			東白川9号	
			南会津4号	
			坂下2号	
			河沼1号	
花粉が少ない	平2号	推奨品種		
	東白川2号			
ヒノキ	33	成長特性等 花粉が少ない		
アカマツ	23	—	—	
クロマツ	4	—	—	
カラマツ	3	—	—	
計	171品種		12品種	

<http://fhbc.job.affrc.go.jp/> にあります。

いわば、今まで分からなかった精英樹の商品価値がようやく公表されたこととなります。特に推奨品種とされた精英樹は用材として高い特性を持っているとされています。さらに平成一六年度から精英樹の中から花粉が少ないという特性や、二酸化炭素吸収能力が高い等の時代の要求に対応した特性も評価されるようになりました。これらのことから、表一1の右に挙げた特に優れた特性を持つ一二品種は、福島県の財産として十分に価値のあるものだと思います。

○第二世代の精英樹へ

第一世代の精英樹は何万本もしくは何百万本という山林にある木から

選ばれたのですから、それはもうエリートに違いありません。しかし、国が目指している目標からするとまだ十分とは言えないようです。簡単にいうと、成長特性に優れているとしても、普通のスギよりも何倍も優れているわけではないようです。つまり、第一世代の精英樹は品種として現在のベストではあるが、商品価値をさらに上げる必要があるというわけです。

完成度を高めるには育種の基本の手法にのっとらなければなりません。競走馬を例にとると、とても足速の速い馬が欲しかったら、最強の競争馬の父親と母親を選び、その子供たちを競争させ、最も足の速い子を選ぶ、というやり方です（図一）。

これを林木におきかえると、特に優れた特性を持った第一世代の精英樹を選びます。そして、選ばれた精英樹どうしを人工的に交配させて子供たちを作り、その中から選りすぐったエリートたちを選ばなければなりません。選りすぐったエリート子供たちが第二世代もしくは次世代の精英樹と呼ばれるものです。

第一世代の精英樹から良いものを選ぶことは、専門的な言葉で一般次代検定林調査と呼ばれており、昭和三〇年代から行われてきました。その結果を反映し、成長等に優れた精英樹どうしを人工的に交配させ、そ

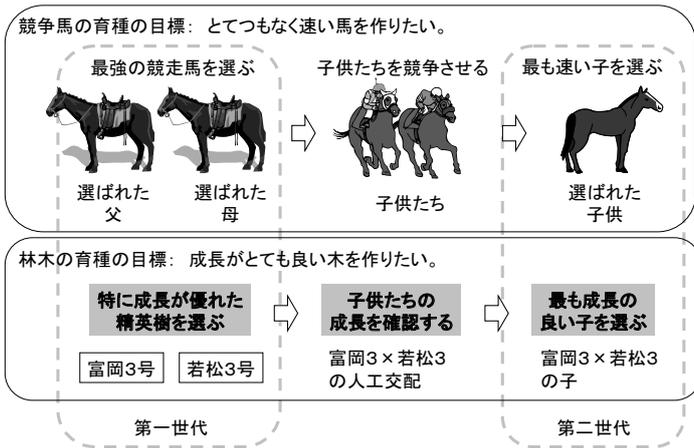


図-1 良い品種を開発するための方法
良い品種は第一世代ではなく、第二世代（次世代もしくは子供世代）から選ぶ

真一（1）。三年生の山行苗の苗高を三〇〇センチとすると山に植えられてからたったの二年で高さが一〇倍以上に成長したことになります。この個体は間違いなく第二世代の精英樹に選ばれるでしょう。

この例だけをみても、第二世代の精英樹は山の維持管理コストの縮減や花粉症対策に大きく貢献する可能性を秘めていると考えても過言ではありません。もちろん、材としての特性も併せ持っているはずですから、商品価値としては非常に高いと考えられます。

ちなみに、平成二二年度は八一個体が選抜されるのを皮切りに、平成二八年度までに七〇〇本（スギ五〇〇本、ヒノキ二〇〇本）が第二世代の精英樹として選抜される予定です。

○第二世代の精英樹の種苗供給
いままです精英樹とその品種開発・品種改良について紹介してきました。では、最初に紹介した「次世代育種」促進研究会は何のために開催されたのでしょうか。それは、開発されたつある第二世代精英樹の種苗を今後どのように供給していくかを話し合う会議なのです。

現実には種苗を供給するとなると問題は大きいと思われるま

の子供たちから良いものを選ぶことを精英樹F1検定林調査と呼ばれており、昭和四〇年代から行われてきました。

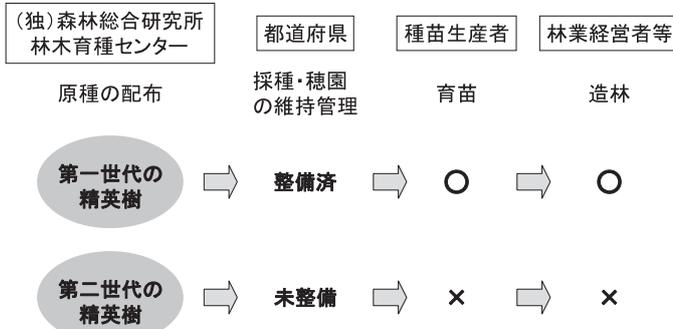
そして、精英樹F1検定林調査の結果は今年度から公表されます。終戦直後から始まった日本のスギやヒノキの品種改良の結果が研ぎ澄まされて表に出てきます。これは大いに期待しなければならぬところですが、実際にその結果の一部が公表されています。

ある精英樹F1次代検定林において、五年生で七割に成長する特性を持つている個体があるそうです（写

現在、現在の種苗供給体制は都道府県が管理している採種園・採種園や種苗生産者を経由して林業経営者に渡されます（図-2）。開発された第二世代精英樹の種苗は各都道府県で新たに採種園・採種園を造成し、そこから供給することになります。

会議の中では普及の原動力である都道府県が経営する採種園・採種園の管理に関する予算や人員、また、苗木生産に関する技術的な問題点を解決するための研究費や人員が激減していることが紹介されました。つまり、近年の財政状況を考慮すると第二世代精英樹の種苗は、単純には通常の供給ルートには乗りそうにな

図-2 種苗の供給体制



○さいごに
林木育種の状況は大きく変わりつつあります。「次世代育種」促進研究会で打ち出された方向性をもとに、いくつかの県では種苗生産体制を徐々に変えようとしてつつあることを会議の席上で耳にしました。会議が終わって帰路につきながら、福島県ではどのような体制をとることになるのだろうか、と漠然とした不安に駆られました。（今回紹介した「次世代育種」促進研究会の資料は、独立行政法人森林総合研究所林木育種センターのホームページに公開されています。）

種苗供給に関する問題が山積するのです。

種苗供給に関する問題が山積する中、打開策として提案されたのが、高速育種運営会議（仮称）の立ち上げです。設置目的は「採種・採種園の合理的な管理体制を広域単位で構築していくため」とされています。

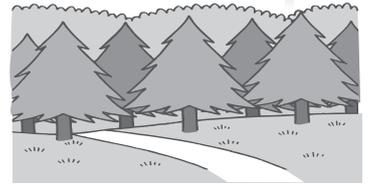
種苗生産を合理的に行うために広域的に連携するとはどのようなことなのでしょう、会議で出された委員達の意見をもとにいくつか考えてみます。たとえば、いくつかの県で一つの種苗生産体制を作るという意味かもしれません。また、種苗生産体制を縮小し、生産する樹種を限定するという意味かもしれません。いずれにしろ、立ち上げられる高速育種運営会議の中で具体化されていくに違いないと期待しています。

シリーズ

千両・万両有り通し

荒井

(樹木医) 賛



私は生け花には全く疎いが、お正月の生け花と言えばマツ、センリョウ、ナンテン、ウメ等はは欠かせないもののようだ。

最近、チューリップやトルコギキョウ、バラ等カラフルな花材も好んで使われるようになってきているが、これは栽培施設や技術の向上、品種改良、グローバルな物流の賜で、野菜などと同様季節感が無くなってきた。

かつて、生け花と言えば、花材としてはその季節に最も美しい姿の植物であつて、その植物をいかに美しく飾るかにあつたに違いない。

ところで、正月はいろいろな面で最も飾り立て、新年を迎えたいのが人情であるが、昔の人は我々よりも、もつとこの



左より千両、十両、万両

感は強かつたであろう。

しかしながら、どういう訳か陰暦も陽暦も年の初めの正月は冬なのである。

冬は多くの植物にとつて休止期であり、花の咲く植物は極めて少なく、あえて挙げれば、水仙、福寿草、梅、椿、蠟梅、山茶花、満作、馬酔木あたりであろう。

一方、赤い実を付け、小鳥に繁栄を託す植物が目につくようになる。私達の身近な庭先でもウメモドキ、ナンテン、ナカマド、アオキ等が見られる。

昔の人は、正月の花材として、こうした実物を使わざるを得なかつたことであるが、また、新年を祝うに当たつてはお目出度い縁起を担いだ名前の花材が求められたことであろう。

たとえば、ナンテンは「難を転じ福となす」、オモトは万年青で「常に若々しく」などのことから、好んで使われている。

とはいえ、現在の正月の床の間には、若松とセンリョウの生け花は欠かせないようだ。

関西には「千両、万両有り通し」という正月飾りがあるそうだ。一年中お金がたっぷりあるようにとの縁起を担いだものであるが、何れも常緑で赤い実の付く小灌木である「センリョウ」と「マンリョウ」と「アリオシ」を寄せ植えし

たものらしい。さて、ここに述べた千両、万両の他に百両、十両、一両と言うものがあるのをご存じだろうか。

また、どうしてこんなにお金に関連した名前が付けられたのであろうか。

○マンリョウ・根の断面に赤い小斑が見られるので朱砂根。センリョウより実が大きい↓【万両】

○センリョウ・赤い実の様子を珊瑚玉に例えて珊瑚。また、葉がタデに似ていて、赤い実がタデ(蓼)のそれより優れているので仙蓼。次の「百両金」に対応して文字も変化↓【千両】

○カラタチバナ・葉がミカン(橘)に似ており、中国にもあるので唐橘。江戸時代、様々な品種が創り出され高価で取引され(百両もの値が付いたとも)ことから百両金↓【百両】

○ヤブコウジ・赤い実をミカン(柑子)に例え敷にあるから敷柑子。古名は紫金牛。百両より小形だから↓【十両】

○アリオシ・刺が鋭く蟻さえ刺す程度で蟻通し、古名は虎刺。「千両、万両アリオシ」とくればアリオシが【二両】でなければ格好が付かないので?...

(注) 中国でもこれらは生育し、樹種名は現在もそれぞれ朱砂根、珊瑚、百両金、紫金牛、虎刺を用いている。

昭和三六年に発行された「樹木大図説」には各樹木について、別名、地方名(方言)、漢名、古名など詳しく記載されているが、ヤブコウジを十両、アリオシを一両と呼ぶとの記載は全くない。

従つて、一から万まで名前が出そろつたのはそれほど古い話ではないものと思われる。

マンリョウ、カラタチバナ、ヤブコウ

ジはヤブコウジ科の植物で変種が多く、古くは江戸時代から愛好家があり、投機の対象となってきたという。たとえば、紫金牛(ヤブコウジ)は明治後期から大正にかけ大流行し、最も人気のあつた「日本司」という品種は一年生苗で一、〇〇〇円の高値で取引されたそうだ。当時の一円は今の二〇、〇〇〇円位の重みがあつたというから、「十両」とは安すぎる名前かも。

ところで、これらヤブコウジ科の福島県における自生地状況であるが、ヤブコウジは県内に普通に見られるのに対し、マンリョウ、カラタチバナは浜通りを北限とし、極まれに見られるという。

ただし、最近私の家では、鉢植のマンリョウの実を鳥たちがついばみ、糞と共にまき散らしたのだから、庭に実生苗がしばしば見られるようになった。

センリョウ科のセンリョウは東海地方以西、アカネ科のアリオシは関東地方以西に分布し、本県には自生していないという。

私は信じているわけではないが、人並みに縁起を担ぎたい方である。今年の正月は「千両、万両有り通し」で床の間を飾りたいと思ひ、センリョウとアリオシを園芸センターやホームセンターで探したが、結局アリオシは見つからず、買い求めることができなかつた。

今年も一年中お金は「有り通し」とは行かないようだ。

主な参考文献 佐藤啓二 大樹木図鑑 有明書房 福島県植物誌編さん委員会 福島県植物誌編 小原豊雲 いけばな植物事典 小原流出版事業部 牧野新日本植物図鑑 北隆館 林弥栄 日本の樹木 山と溪谷社 陳有民 園林樹木学 中国林業出版社

— 普及指導員通信 —

森林資源の活用を目指して

■南会津農林事務所
林業普及指導員 柳田 範久

今年度、南会津町に「みなみあいづ森林ネットワーク」という組織が発足しました。

「みなみあいづ森林ネットワーク」は、森林認証「SGEC」の取得を目指し、森林に親しみ、森林をつくり、地域材を使うことで森林を守り育て、活動の和を広げることを目的としています。

これまで当管内には、森林・林業関係者で作る組織がない状態でしたが、素材生産業、製材業、木材加工業、チップ業、流通業、森林組合など林業関係者の21社が構成員になり、関係者・各団体の情報交換の場作りや地域活性化を目指し発足されました。

5月に設立総会、7月に財団法人林業経済研究所所長の餅田治之氏を招き、「今後の南会津の林業を考える」と題して設立記念講演を行い、10月からは毎月15日を「南会津森林・林業勉強会」として、同餅田治之氏や社団法人日本森林技術協会の関厚氏を講師に招き勉強会を行っています。

テーマは、森林認証の取得から森林経営の現状、新生産システム下での動き等と多岐にわたっています

が、南会津において全国的視野での林業を取り巻く現状が勉強できるという機会は非常に有意義です。

南会津管内の森林率は93%と非常に高く、森林資源は豊富にあります。しかし、これらの森林資源を有効に活用することが当地域の活性化を図る上で非常に重要であり、地域の森林や木材に付加価値をどのように付けていくかが今後の課題になると考えられます。

南会津における森林認証の取得までには、多くの課題がありますが、川上から川下の林業関係者が集まり、当地域の森林・林業の再生に向け勉強会等を開催し、地域林業再生に懸け、地元森林を有効に活用しようとする気運が高まることは、森林・林業再生プランが始動するこの時期に非常に意味のあることだと思えます。

南会津管内の森林・林業を取り巻く環境は非常に厳しいところですが、このような組織の活動により地域の活性化が図れればと思います。



「鳴山」南会津町田島

廃線した「木戸川森林鉄道」とトレッキングコース

■相双農林事務所 富岡林業指導所
林業普及指導員 大田原 和美

トレッキングコースと言うと、都会人向けのCM的に聞こえてしまう歳の自分ですが、いわゆる「山歩き＝山中散策＝森林教育＝沢歩き＝溪流釣り＝古代懐古＝森林セラピー」のできる山道はないかなと思っています。

ここでは、1914年に3人の木材商が開設し、索道会社と富岡営林署への管理移管を経て、1961年まで豊富な木材を運搬して廃線した「木戸川森林鉄道」の活用方法の一つとして、トレッキングコースの提案をしまして、森林歴史資産を知ってもらうことと、林業普及活動にどんな風に結びつけて行くことが良いのかを少し述べます。

今から10年前、木戸川ダム工事が着工し、湖底に水没する森林鉄道があるとのことで、森林組合職員の案内で調査をしました。この時、この鉄道敷きを遊歩道にしたら素晴らしい山歩きコースができるだろうと思っています。

平成21年度に再び富岡林業指導所勤務となり、ふと

したことから当事務所の嘱託運転手に話したところ、なんと彼は森林鉄道のあった集落（旧栖葉町：現いわき市）の生まれであることが分り、当時の話を聞くことができました。また、林業普及指導員は、地域住民と話をする機会が多く、森林鉄道の近くにすむ農林家の方などから、情報や資料を入手することもできました。

私案の構想ではありますが、ダムからその集落跡地までは難コースとなってしまうものの、そこから上流は少し手を入れればなだらかなコースが設定できます。傾斜を克服した遊歩道のコースや沢登りのコースなどこの土地特有の森林景観が観察できます。実現できれば、浜通り随一、いわき市の「背戸峨廊」を凌駕するコースが出現することは間違いありません。

山村地域の振興を目的に普及指導を行っている毎日ですが、森林歴史資産の活用と現代風なトレッキングコースの整備によって、林業の切り口を増やしていきたいと思っています。



「廃線となった森林鉄道跡」(2010撮影)



「木戸川森林鉄道」(1925撮影)



素材の価格〈工場着価格〉(10月15日現在)

(単位: m³当り千円)

区分	形量		材質	樹種	中通り地方		会津地方		浜通り地方		県平均		
	径(cm)	長さ(m)			当月	前月差	当月	前月差	当月	前月差	当月	前月差	
一般用材	小	5~9	4.00	並	スギ	8 (8~8)	0	9 (9~9)	0	7 (5~9)	0	8 (5~9)	0
		10~13		並	スギ	11 (11~12)	0	9 (8~9)	0	9 (8~12)	0	10 (8~12)	1
	中	14~18	3.00	並	スギ	14 (12~16)	1	11 (11~12)	0	13 (11~14)	1	13 (11~16)	1
				並	ヒノキ	20 (17~23)	1	(~)	0	19 (17~21)	2	19 (17~23)	1
		6.00	並	スギ	19 (17~21)	1	18 (18~18)	0	16 (16~17)	0	18 (16~21)	1	
			並	ヒノキ	24 (24~24)	0	(~)	0	24 (21~27)	0	24 (21~27)	0	
	20~28	3.65	並	スギ	14 (13~17)	1	12 (11~12)	0	12 (11~13)	0	13 (11~17)	1	
		4.00	並	アカマツ	11 (8~13)	1	10 (10~10)	0	11 (10~12)	0	11 (8~13)	1	
		1.80	並		8 (5~10)	0	(~)	0	8 (7~8)	0	8 (5~10)	0	
	外材	30以上	10.00	並	米ツガ	22 (22~22)	1	(~)	0	24 (24~25)	0	24 (22~25)	0
並				米マツ	25 (22~28)	0	26 (26~26)	0	25 (25~26)	△1	25 (22~28)	△1	
28以下		4.00	並	エゾマツ	(~)	0	(~)	0	23 (20~25)	0	23 (20~25)	0	
			並	ベニマツ	27 (27~27)	0	22 (22~22)	0	21 (21~21)	0	23 (21~27)	0	
南洋材		70~90	8~14	並	ラワン	(~)	0	(~)	0	(~)	0	(~)	0
				並	アガチス	(~)	0	(~)	0	(~)	0	(~)	0
パルプ用材	-	-	並	マツ	(~)	0	(~)	0	6 (6~6)	0	6 (6~6)	0	
			並	広葉樹	(~)	0	(~)	0	6 (6~6)	0	6 (6~6)	0	

九月の原木市場への入荷状況は、前月比一六割増(前年比二五割増)の二三、九三一立方メートルとなっている。
販売量については、売れ行きは良好で前月比で二四割増(前年比三二割増)の二四、四三八立方メートルとなっている。
一〇月の価格については、品薄感から強気配である。

区分	形量		材質	樹種	会津共販		いわき	
	径(cm)	長さ(m)			当月	前月差	当月	前月差
一般用材	12以下	4.00	並	カラマツ	8 (7~8)	0	9 (8~9)	0
	13~14		並	カラマツ	7 (7~8)	0	8 (7~9)	0
	16以上		並	カラマツ	9 (8~10)	△2	11 (10~11)	0

注) 1. 前月差の△印は値下りを、*印は前月実績がなかったことを示す。
2. ()内は各地域の価格幅、()外は各地域の平均的価格を示す。
3. 一般用材カラマツは工場着価格ではなく、福島県森林組合連合会の会津共販所・いわき木材流通センターの素材市売価格を示す。

サルが町中に出没するなんて、田島は自然豊かだ!と思っていました。そんな悠長な問題ではなかったのです。
南会津地域における野生動物による森林被害は顕著ではないので

「サル」。
新聞に、サルが中学校の校庭にあつたサッカーボールで遊んでいる写真が掲載されたことで記憶されている方も多いと思います。
この一頭のはぐれザルが町内に出没しています。先日は、子どもに危害を加えたということで、町では毎日のように捕獲隊が出動し、サルと悪戦苦闘しています。
合同庁舎の駐車場の片隅にも捕獲用の檻が設置されました。
こんな騒ぎになる前に、私も、何度か町中で見かけました。先日は、合庁近くの造酒屋の中に入つていくサルを目撃し、このサルは酒好きなのかと感心しました。

サルが町中に出没するなんて、田島は自然豊かだ!と思っていました。そんな悠長な問題ではなかったのです。
南会津地域における野生動物による森林被害は顕著ではないので



野生動物との共存

南会津農林事務所森林林業部
林業課長

柳田 範久

南会津町田島での今の話題は、「サル」。
新聞に、サルが中学校の校庭にあつたサッカーボールで遊んでいる写真が掲載されたことで記憶されている方も多いと思います。
この一頭のはぐれザルが町内に出没しています。先日は、子どもに危害を加えたということで、町では毎日のように捕獲隊が出動し、サルと悪戦苦闘しています。
合同庁舎の駐車場の片隅にも捕獲用の檻が設置されました。
こんな騒ぎになる前に、私も、何度か町中で見かけました。先日は、合庁近くの造酒屋の中に入つていくサルを目撃し、このサルは酒好きなのかと感心しました。

サルが町中に出没するなんて、田島は自然豊かだ!と思っていました。そんな悠長な問題ではなかったのです。
南会津地域における野生動物による森林被害は顕著ではないので

サルが町中に出没するなんて、田島は自然豊かだ!と思っていました。そんな悠長な問題ではなかったのです。
南会津地域における野生動物による森林被害は顕著ではないので

サルが町中に出没するなんて、田島は自然豊かだ!と思っていました。そんな悠長な問題ではなかったのです。
南会津地域における野生動物による森林被害は顕著ではないので

みどりの少年団コーナー
No.180



新しい年を迎え、緑の少年団、そして育成協議会の皆様にとりまして、健康で幸多い年となりますようにとお祈り申し上げます。

緑の少年団の皆さん、昨年の活動はいかがでしたか。今年も森林や緑あふれる中での楽しい体験活動や地域・学校の環境美化の活動、そしてスポーツ・勉強など、実り多い一年を過ごされますようにと期待しております。



街頭募金—双葉北小みどりの少年団



緑の少年団大会—自然観察会

容にしたいと
考えておりま
す。
なお、福島
県緑の少年団
大会は、七月
二七日～二八
日に、昨年と
同じ猪苗代町
で開催する予

昨年七月、猪苗代町を会場に開催

した福島県緑の少年団大会は、大勢の参加者を得て、盛大に開催することができました。これも参加いただいた皆さんの積極的な行動とご協力、さらには関係機関・団体の皆さまのご支援のおかげと深く感謝しているところです。大会直前には、会場周辺のみならず県内各地において熊の出現のニュースが報じられるなど、野外活動の実施が懸念されましたが、地元猟友会のご協力等も得、安心して実施することができました。

大会中は大きな事故もなく、自然観察会や木工クラフト、キャンプ・ファイヤなどを通じて他の少年団員との交流も深まり、想い出の残る大会であったと思います。

平成二三年の福島県緑の少年団大会は、さらに内容を検討し、参加者の皆さんに喜んでもらえるような内容にしたいと

定です。

また、五月二六日(木)には平成二三年度福島県緑の少年団活動実績発表会を郡山市の福島県林業研究センターで開催の予定です。各団の楽しく活発な活動様子の報告がなされるよう期待しております。また多くの少年団が参加されるよう希望しております。

この大会で優秀な成績をおさめた団は、全国緑の少年団活動発表大会に推薦されます。本県代表として推薦された少年団は、四年間連続で「緑の奨励賞」を受賞し、昨年も、川俣町立山木屋小学校緑の少年団が群馬県で開催された育樹祭に出席し、併せて行われた全国緑の少年団活動実績発表大会において堂々と発表しております。本年は他の団も全国大会に出場できるよう、がんばって欲しいものです。

緑の少年団は、平成二二年度に新たに四団が加わり、現在一一四団、約六、四〇〇名となっております。少年期に野外活動などを多く経験した者は、成人になっても「生きる力」が強く、逆境や困難に対しても立ち向かっていける人の割合が高いという記事が報じられました。緑の少年団員の増加と団員の一層の活動充実を期待したいものです。

近年、市町村合併や児童数の減少

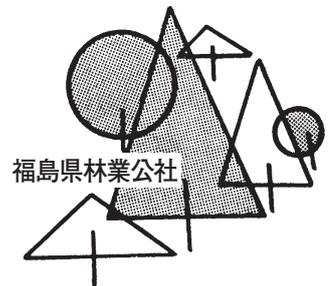
等による学校の統廃合が進み、伝統ある緑の少年団も解散を余儀なくされることがあります。緑の少年団は森林や屋外での楽しい学習活動、「緑の募金」活動や植樹・育樹祭などへの参加、清掃活動や奉仕活動など幅広い活動を各地で展開しており、その輝かしい活動を途絶えさせたり、縮小させてしまうことは誠に惜しいものです。統合されても、緑の少年団を再結成するなどして、今まで活用した学校林やフィールドを自然観察や環境教育の場として活用し、次代を担う子供達にとつて、より活発な活動が展開できるように、学校はもとより関係機関・団体、そして地域の方々のご協力やご支援をお願いしたいと考えております。

最後に、福島県緑化推進委員会のホームページがリニューアルいたしました。緑化推進委員会の活動内容はもちろんのこと、緑の少年団に関する記事等も掲載されていますので、ぜひご覧下さい。また、ご意見等もありましたら、お寄せ下さい。

緑の少年団、育成会の皆さんのなお一層のご活躍を期待しております。

公社だより

豊かな森林資源を
未来へつなぐために



○分収造林変更契約書合同調印式

福島県林業公社は、木材価格の下落等社会経済情勢の変化を踏まえ、平成一八年五月に決定した【改訂】第二次改善計画に基づき、公社自らの改善策、県の支援による改善策及び土地所有者の協力による改善策（分収割合の見直し）による経営改善に取り組んでおります。

このたび、分収割合の見直しについて、市町村有林契約では初めて田



変更契約書に署名 (調印式)



和やかに握手 (調印式)

村市及び川俣町から協力が得られましたことから、一月二二日に自治会館において林業公社理事長、田村市長、川俣町長の出席、及び県農林水産部長の立会いのもと、分収造林変更契約書の合同調印式を行いました。

林業公社松本理事長からは、「仮に林業公社が無くなることになれば、森林の手入れができなくなり、山が荒れることになる。そのようなことは絶対にあってはならない。豊かな森林資源を次世代につないでいくために

も、本年度中に全ての市町村有林の変更契約を締結できるよう全力で取り組

み、公社の経営改善を進めていきたい。」旨あいさつがありました。

林業公社は、県と連携して、本年度中には市町村及び財産区、二三年度までには個人・共有林等の変更契約を締結する計画でありますので、皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

○間伐材を利用した「クリスマスツリー」プレゼント

福島県林業公社では、間伐で発生する木材の有効利用と次世代の森林づくりを担う子どもたちに「森林を慈しむ心」の育成を図るため、スギの間伐材を利用したクリスマスツリーのプレゼントを行いました。

今年で四年目となるこの企画ですが、県内の保育所、幼稚園、小学校等の教育施設及び医療・福祉施設等から予定していた一〇〇本に対して一〇三本の応募がありました。一月九日と一〇日には、応募があったすべての団体に希望どおり配付いたしました。

「あいさつ運動で、上手にあいさつが出来たらツリーにオーナメントを飾るといふようなことをした。子どもたちがとても喜んだ。(小学校)」「生の木に入所者も興味を示し、目の輝きも違った。(老人福祉施設)」

といった感想をいただき、このプレゼントを心待ちにしている声が数多く寄せられました。

なお、ご応募いただいた団体の中から、一月一〇日に福島市野田の「福島カトリック幼稚園」を訪問し、クリスマスツリーと装飾用の松ぼっくり(約二〇〇個)の贈呈を行いました。市販のプラスチック製のツリーしか触れたことのない園児達は「大きい。緑色の生きている木だ。」と、本物の自然の木にとっても驚きながら飾り付けを楽しんでいました。

公社の取組みについては、公社ホームページの「林業公社だより」に掲載しておりますので、ぜひご覧ください。



ツリーに飾り付けしてキャンドルサービス (福島カトリック幼稚園)

森林管理署メト

木材を利用した 治山工事



レクリエーションの場など多面的に利用されています。

これらの森林を整備することにより、山崩れなどの災害から地域住民の方々の生命や財産を守り、また、水源のかん養や自然環境の保全を図ることで安全で住みよい地域づくりに貢献しています。

特に保安林機能の維持向上を図るための治山事業についても当支署では力を入れています。台風や集中豪雨の際に被害を受けた山腹崩壊箇所や土砂流出箇所の復旧、また溪流が荒廃したり溪岸が浸食されるなど土砂流出の危険が高い溪流での対策等、様々な場所で治山工事を行っています。

治山事業にあたっては、これまでもできるだけ経済的、効果的な工法を選定して実施してきましたが、近年においては、地球温暖化対策の一環から、木材（間伐材）を利用した工法

をできるだけ多く実施するよう当支署でも取り組んできました。

これは、関東森林管理局が掲げる「平成二二年度重点取り組み」の一環でもあ

る「木材を利用した治山事業」に沿った取り組みでもあります。

溪流における土砂流出や溪岸浸食の抑制を図る谷止工などにおいては、コンクリートダムの型枠材や木製谷止工などに間伐材を使用しています。

また山腹工事においても、コンクリート土留工の型枠材や様々な木製工作物の材料として間伐材を使用しています。

農林水産省では、平成二二一年二月二五日に「森林・林業再生プラン」を公表しました。

これは今後一〇年間を目的に、路網整備・集約施業・人材育成を軸にして、安定的な林業経営の基盤づくりを進めるとともに、木材の安定供給と利用の必要な体制をつくり、我が国の森林・林業を早急に再生していくための指針として策定されました。

この「再生プラン」でも、木材利用の一層の拡大が掲げられています。

国有林もこのプランの趣旨に沿った事業の計画と実行が今後図られることとなり、当白河支署も、地域の森林の保全や林産業活性化のため、木材の安定供給や森林の保全整備、そして木材をより多く使用した治山事業や土木事業などに今後一層取り組んでいきます。

当支署は、白河市を中心とする二市五町六村を管轄し、その内、国有林野所在の八市町村（白河市、西郷村、天栄村、須賀川市、古殿町、平田村、玉川村、矢吹町）の国有林約三四、〇〇〇鈔を管理経営しています。

山系は、奥羽山系及び那須火山群の山地と八溝山地に大別されます。

また水系は、大白森山、鎌房山、真名子峠、鳳坂峠、丸山を結ぶ高原



竜生保安林整備事業（木製谷止工・流路工）天栄村 H20施工



にらむ岩沢谷止工（木製型枠）西郷村 H21施工



馬立治山工事（鋼製枠土留工・木柵工・木製手すり）西郷村 H21施工



地球を守ろう

新年おめでとうございます。皆様には輝かしい新年をお迎えのことと存じます。今年も撮影で訪れた地域や人々との出会いなどを紹介しますので、よろしくお願います。

昨年は国民にとつて暑さに翻弄された一年と思つている。我が家では猛暑の中エアコンが壊れ、買い換え費用など臨時支出も伴い、連日の暑さとの戦いも半端ではなかった。このような状況が影響したわけでもあるまいが、財団法人「日本漢字能力検定協会」恒例の一年を表す一文字に「暑」が選ばれた。全国からの応募で最も多かったのが「暑」で漢字の日に当たる一月二日に発表された。選ばれた理由には、春から秋まで続いた猛暑により野菜が不作のため価格が高騰し、魚介類も不漁だったことなどがある。他に、チリ鉱山の落盤事故で暑い地下から全員が無事救出されたことや、小惑星探査機「はやぶさ」が大気圏突入の際に猛烈な熱に耐えて無事帰還した事など、理由は多岐にわたっている。

余談だが、山では餌不足などから熊などが人里に現れ、人畜や農作物に被害を与えた。長かった猛暑を体験し、地球温暖化の警鐘と感じたのは私だけではないと思つている。ところで、唯一の救いは水源が枯渇しなかったことで、私は森林の効果が大きいと思つている。しかし、森林を抱える農山村では、木材価格の低迷などから林業離れが進み、若者の流出と高齢化などから疲弊が一段と進み、保育管理の必要な人工林が荒れ放題で、水源涵養や土砂流出防止機能など公益的機能の低下が大きな社会問題となっている。幸い、本県では森林環境税などを活用して間伐推進などの施策が進められ、効果が出ているが、森林所有者自身の手で保育管理が行われることが、林業県福島に求められている。

猛暑で家電業界は潤ったらしいが、長引く不況に追い討ちをかけた猛暑は一般家庭へ打撃だけを与えて過ぎ去った。党を壊すと言って国を壊した方？は引退し、国民の期待を担って登場した政権にも甘い期待は無理らしい。快適な生活を送るには地球上の全人類が協力して地球を守る必要があり、自然にもっと目を向けて欲しいと願っている。

佐藤微風

表紙の横顔



ゆかいな仲間たち

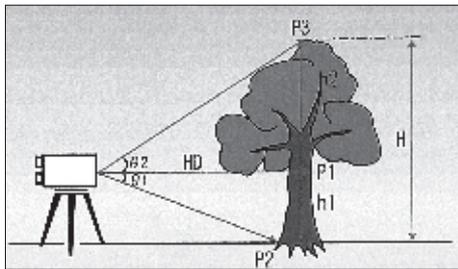
第7回ふくしま森林・林業写真コンクールで最優秀賞(県知事賞)を受賞した佐久間吉信さん(二本松市)の作品。

編集

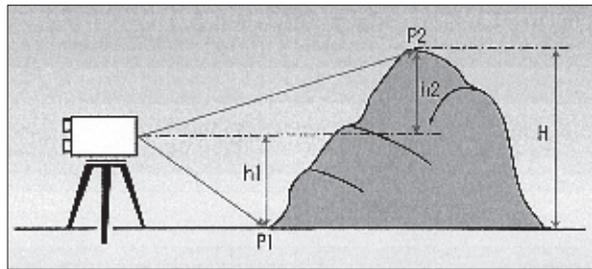
福島県内四森林管理署
福島県林業協会
福島県森林組合連合会
福島県木材協同組合連合会
福島県緑化推進委員会
福島県農林種苗農業協同組合
福島県林業公社
森林総合研究所福島水源林整備事務所
福島県林業協会
福島市中町五番一八号県林業会館内
発行人 陽光社印刷株式会社
発行 渡辺卓
編集 佐藤微風

高さ測定

1. 樹木の様に比較的まっすぐな場合



2. 堆積物等の山なり形状の場合



【LDM-20 仕様】

測距範囲	反射板 無30m 有300m
測距精度	±5mm
傾斜センサー分析能	0.1
測定	高さ・水平距離・斜距離
寸法	W64・H64・D180
重量	650g
付属品	ソフトケース・反射板・取説 RS232Cケーブル・EXCEL取込ソフト



LDM-20

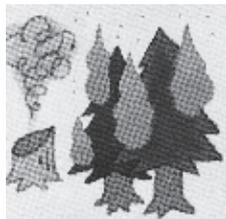
レーザーハイトセンサー「ハイト mini」

株式会社 福島測機

福島市渡利山ノ下前37-2 TEL024-523-1706 FAX024-523-1704

備えのパートナー 森林国営保険

こんな災害からあなたの山を守ります。



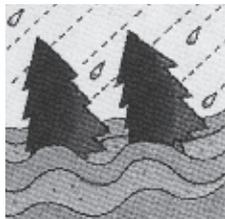
1 火災

山火事で受けた損害



2 風害

暴風による根返り、幹折れなどの損害



3 水害

豪雨、洪水による埋没、水没、流失などの損害



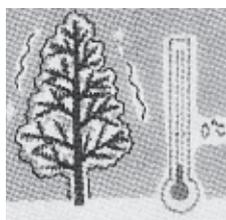
4 雪害

大量積雪による幹折れ、根返りなどの損害



5 干害

乾燥による枯死などの損害



6 凍害

凍結、寒風などによる枯死などの損害



7 潮害

潮風、潮水浸水などによる枯死などの損害



8 噴火災

火山噴火による焼損、幹折れ、埋没、根返りなどの損害

《ご相談・お申し込みは》

◆森林組合

◆森林組合連合会

福島県農林水産部森林整備課

☎ 024-521-7430

イワフジのプロセッサ

GP-35V プロセッサ

IWAFUJI
INDUSTRIAL CO., LTD.

シンプルと耐久性を迫及したプロセッサ



Simple Processor
MODEL : GP-35V



- 高耐久性を迫及したフレームとトンク
- 大容量ソーモータの採用による優れた切断力
- カッタ押し付けはシンプルなスプリング式
- 手元のノブスイッチで全ての操作が可能
- 強力な油圧モータおよび保持力によるパワフルな送材力
- 大きなトンクによる効率的なグラブ作業
- 高速コンピュータ GP-7 による精度の高い安定した測尺
- 皮剥けを防止するガイドローラ付トンク

ランニングコストに優れたシンプルプロセッサ

林業機械の総合メーカー

- ・ハーベスタシリーズ
- ・グラブリングシリーズ
- ・スイングヤーダシリーズ
- ・木寄せウインチシリーズ
- ・フォワーダシリーズ
- ・プロセッサシリーズ
- ・ラジキャリアシリーズ



イワフジ工業株式会社

北関東支店 〒969-1149 福島県本宮市本宮万世11-7
TEL 0243-34-5440 FAX 0243-34-5442

イワフジが開催する「高性能林業機械のメンテナンス研修」受講生募集中!
詳しくは当社ホームページをご覧ください www.iwafuji.co.jp



豊かな緑を次代へ

自然との調和

私達は、地球的視野に立ち、つねに進取の精神をもって、時代に挑戦します。

皆様のご要望にお応えする、環境との調和を図る製品やタイムリーな情報を提供し、全国から厚い信頼をいただいております。

野生動物から大切な植栽木を守る

ツリーセーブ
ヤシマレント

盗みされ防止

ハチノックL (網隠し)
ハチノックS (携帯用)

**大切な日本の松を守る
ヤシマの林業薬剤**

ヤシマスマイバイン乳剤
ヤシマスマイバインMC
グリーンガードエイト
パークサイドF
ヤシマNCS
モリエートSC
マツグリーン液剤2

くん蒸用生分解性シート

ちゆらシート (茶・白)
NCSシート (透明)
与作シート (茶・白)
(折りたたみ式
専用キャリアバック使用)



ヤシマ産業株式会社

本社 〒104-0045 東京都中央区築地1丁目9-6 アロア築地ビル2F
東北営業所 〒981-3133 仙台市泉区泉中央3-10-3-202

TEL.03-5565-3161(代) FAX.03-5565-3164
TEL.022-771-6681 FAX.022-771-6682

効率良く快適に! 手持ち作業から大型作業まで充実のラインナップ。

機器はゼノアから

排気量 **18.3cm³**

世界最小・最軽量、2.2kgの手のひらサイズ



G2000T 

20cm(8インチ)・SP ¥66,675(税込)
20cm(8インチ)・CV ¥72,765(税込)

排気量 **40.1cm³**

さまざまな用途に対応、本格プロ仕様シリーズ



G4211EZ 

40cm(16インチ)・SP ¥135,660(税込)
45cm(18インチ)・SP ¥137,865(税込)
40cm(16インチ)・H ¥135,660(税込)
45cm(18インチ)・H ¥137,865(税込)

使いやすさを
追求したハンドルと
思いのアクセルワークが
可能なトリガーレバー。



BC2711DW1-EZ

・防振ハンドルブラケット
・トリガーレバータイプ
チップソー ¥79,380(税込)
笹刈刃 ¥78,330(税込)

ハスクバーナー・ゼノア(株)福島県代理店

(有)うねめ林業機械

TEL(024)952-2657・FAX(024)951-7775 〒963-0211 郡山市片平町字新蟻塚108の1